

## 令和5年度 第二南陽園事業報告

第二南陽園の事業運営については、令和5年度の介護保険事業計画に定めた基本方針および第二南陽園事業計画に基づき、利用者一人ひとりが安心して暮らしの出来る施設運営を目指すとともに、介護技術の向上をはじめとしたサービスの向上に努めた。

### 1 利用者の状況

令和6年1月、2月に発生した2度の新型コロナウイルスのクラスターの影響を受け、年間利用率94.8%と年度予算目標を大幅に下回る結果となった。令和5年度の延べ入院日数は6268日（1日平均17.1名）と昨年度より（昨年度9.7名）大幅に増加した。年間退所者数は39名、年間平均要介護度は予算目標4.05に対し、年間平均4.18（ショートを含む）となっている。

#### (1) 利用者の概況

区 分	令和4年度	令和5年度
定 員	150名	150名
ショートステイ定員	6名（15名）	6名（15名）
年間延利用人員	53,098名	53,772名
1日平均利用人員	145.5名	146.9名
利 用 率	93.9%	94.8%
平 均 年 齢	89歳5ヶ月	89歳1ヶ月
最 高 齢 者	108歳	106歳
平均在籍年数	3年8カ月	3年8カ月
最長在籍年数	16年7ヶ月	17年7ヶ月
年間入所者数	34名	36名
年間退所者数	38名	39名

※1 ショートステイ定員の（ ）内は、空床利用の定員を示す。

2 「年間利用人員」「月平均利用人員」「利用率」は、ショートステイを含む。

## 2 施設運営基本方針の実施状況(概要外特記事項)

### (1) 安定的経営基盤の確保

#### ① 収入の確保について

新型コロナウイルス感染症による2度のクラスターや、新規利用者の確保が難しく、欠員数は1日平均2.5人目標に対し、3.1人と目標に達成しなかった。年間新規ショートステイ契約者は97件と昨年を上回り、年間延べ利用者数6,101名のショートステイ受け入れを行うことができた。

#### ② 施設・設備の維持について

今年度は温冷配膳車6台、ナースコール設備一式の更新を行った。

#### ③ 人材確保について

法人本部と連携して介護人材確保に当たり、一般求人広告のほか、ハローワーク、福祉人材センター、ウェブでの求人等を活用しながら幅広く人材確保に努めた。また、特定技能外国人の採用を積極的に行い、契約ケアワーカーとして3名採用することができた。一部派遣職員も採用しながら職員の確保を進めた。

### (2) 利用者中心のサービスの提供

令和5年度、浴風会病院へ入院搬送したケースは延べ142件、外部病院への入院は8件(高齢者療養型支援施設入所除く)、合計延150件であった。ケアワーカーと看護師が連携し、日常の健康状態の把握をはじめ、感染症への予防・対応について取り組み、浴風会病院との連携により入院調整がスムーズに行えた。引き続き、多職種連携し健康状態の変化に早期に対応し、他機関との連携強化に努めていきたい。

緊急やむを得ない身体拘束者は、3月末で1名(経鼻経管栄養の方のミトン着用)であった。

### (3) 専門職の連携を生かせる職場づくり

今年度法人本部で行う新人・階層別・全体研修に延35名の職員が参加し、サブリーダー主催の内部研修に延べ145名の職員が、また、3特養で開催した新人研修等には延14名の職員が参加した。外部研修については、半数はリモート開催であったが、ケアワーカー、看護師、栄養士、機能訓練指導員、事務員等が参加し延21名が参加した。

また、浴風会職員実践・研究発表会と東京都社会福祉協議会主催のアクティ  
ブ福祉 in 東京 23 において「ご利用者が自分らしく生活できる場のあり方  
に対する支援」の発表を行った。

#### (4) 地域との協働と社会貢献

##### ① ボランティアの養成と協働体制の充実について

各ボランティアの活動については、昨年度に引き続き新型コロナウイルス  
感染防止のため、ご利用者と直接関わる活動を自粛した。そのため、ご  
利用者との接触がない園芸ボランティア延 89 名、縫物ボランティア延 24  
名計 113 名の方々にご協力をいただいた。活動自粛期間は、電話や手紙に  
てボランティアの方々へ活動再開に向けたご意見を伺った。

##### ② 地域貢献について

施設利用要綱により、活動室、集会室、車椅子（介護保険制度に拠らな  
い）の貸出サービスを地域住民に対して行っており、令和 5 年度は感染防  
止のため集会室等の貸し出しは行っていないが、車椅子は 4 件の貸し出し  
をした。

近隣の富士見丘小学校・高井戸小学校では、特養三施設・ケア 24 高井  
戸と共同して認知症サポーター養成講座を開催し、今年度は富士見丘小学  
校 6 年生による写生会を 3 年ぶりに受け入れた。また、昨年引き続き現  
場の社会福祉士を、福祉系大学のリモートによる特別授業に講師として派  
遣した。

### 3 利用者へのサービスについて

利用者への介護サービスの提供に当たっては、利用者・家族の意向を伺い、  
施設サービス計画書を策定し、同意を得た上で実施した。

食事は、管理栄養士を中心に、栄養マネジメントを適切に実施した。毎月の  
食事懇談会や食事委員会を開催し、利用者の意見を聞き取り、献立、調理に反  
映させ、喜ばれる食事の提供に努めた。検討の際は、各部署から出された意見、  
要望、苦情などを具体的な内容と統計で把握し、問題検討を積み重ねてきた。  
誕生会、納涼祭などにおいては季節の食材を楽しんでいただける行事食の提供  
をはじめ、お取り寄せデザートやクッキング☆カフェを定期的で開催し、「食べ

る楽しみ」の場を増やすことができた。

嚥下機能の低下や体重減少が見られる利用者に対しては、訪問歯科、多職種と連携し、嚥下内視鏡検査も実施しながら安全にしっかりとした食事摂取ができるよう検討し対応した。

入浴や排泄、着脱、移乗、体位変換という基本的日常介助については、個々のサービス計画に基づいて適切に実施した。

健康管理については、浴風会病院と連携を図り、医療業務委託契約により内科医、精神科医の定期的な診療及び健康管理を受けた。看護・介護の連携を図りながら、疾病の早期発見、早期治療に努めた。また、介護職員等による痰の吸引等の実施要綱に基づき、指導看護師により適宜介護職員の指導研修を行った。医師、看護職員、介護職員をはじめとする多職種連携のもと、安全な実施を心がけた。

機能訓練については、利用者にきめ細かく個別機能訓練計画を策定し、必要に応じ医師の指示も仰ぎながら、必要と思われる訓練を行った。クラブ活動、レクリエーション、行事、日常生活動作等を通じ身体機能の維持を図り、利用者の生活意欲を引き出すべく取り組みを行った。多職種との連携のもとに、適切なシーティング・ポジショニングを通じた生活環境の向上を目指して取り組んだ。

また、利用者・家族には、施設運営上の取り組み等の情報を全体家族会において適時提供するとともに、月例にて情報提供文書を郵送し、また、カラー写真を載せるなどした季刊「フロアだより」を郵送する等、利用者の近況報告と併せて、ご理解をいただくよう努めた。更に、利用者の体調変化など日頃より連絡を密にし、相互信頼関係を築くよう努めた。

サービス提供の基本となる接遇マナーに関しては、年2回の虐待の芽チェックリストでの自己評価を継続するとともに、サービスマナー委員会を中心に接遇マナーの見直しを図った。

## 4 施設の運営・管理について

### (1) 苦情対応について

令和4年度に引き続き苦情報告は2件と少なく、園長以下、苦情受付担当者、

他関係職員が誠意をもって苦情・要望に対応した。苦情発生時、ご家族や関係機関の話から事実確認を迅速に行い、その後の取り組み経緯並びに結果報告について対応を終了することなく、継続的に家族との関係性構築に努めた。

通常の家族連絡は勿論、新型コロナウイルス感染症クラスター発生時には罹患したご利用者の日々の様子など、ご家族へのこまめな連絡・報告に努めた。施設見学が出来ない時期に対しは、タブレット端末を利用した施設案内を行った。なお、苦情の内容は(別表 2)のとおりである。

#### (2) 家族会の開催及び家族との連携について

令和 5 年度家族会も引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で各フロア別の家族会開催は断念せざるを得ない状況となった。全体会は令和 5 年 4 月 1 日にWEBを活用して開催し、令和 4 年度事業実施状況、5 年度の事業計画内容、第三者評価の評価結果等、報告、説明を行った。ご家族との連携においては、日頃から生活相談員を始め、介護・看護職員により、電話連絡や面会時での伝達、郵送等による方法において必要な連絡連携に努めた。

#### (3) 新型コロナウイルスの集団感染発生について

5 年度は、新型コロナウイルス感染症によるクラスターが 1 月と 2 月に発生し、累計でご利用者 41 名、職員 21 名が感染した。なお感染したご利用者の多くは高齢者医療型支援施設で療養を行ったが、浴風会病院での診療・検査や各方面からの多大な協力を得たことで集団感染を終息することができた。

#### (4) 職員の健康管理及び労働災害の防止について

職員の健康管理については、定期健康診断は 5 月に 81 名、夜勤業務に係る職員のみ 2 回目を 11 月に 44 名受診した。また年 2 回の腰痛検診を行うとともに、医師からのアドバイスをそれぞれの職員に伝えた。腰痛予防のため、腰痛予防ベルトを職員に貸与した。

コロナウイルスワクチン接種・インフルエンザワクチン接種については、希望する職員を対象として予防接種を行い、11 月のストレスチェックは 59 名の職員が受験した。定期健診、腰痛検査、ストレスチェック結果については新宿労働基準監督署に報告した。

労働災害の対象職員に対しては、速やかに手続きを行うと共に、安全衛生委員会で状況報告や再発防止等について、産業医からの助言を得た。

#### (5) 災害の予防と訓練について

防災対策として、自衛消防訓練、消防設備機器の整備点検等を通し、防災技術・意識の向上及び安全対策に努めた。

また、昨年度に引き続き、災害時の備蓄物品の更新を行った。

### 5 短期入所生活介護（ショートステイ）について

在宅で生活する要介護者、ご家族の介護負担を軽減する大切な事業であり、ご希望に対し居宅介護支援事業所のケアマネジャーと連携したうえ、できる限りご要望に応えられるよう努力した。

5年度の延べ利用者人員は、6,101名で1日平均は16.7名であり、4年度5,099名（1日平均14.0名）より増加した。なお、緊急ショートステイは23件であった（4年度は12件）。

（専用ベッド6床、空床利用ベッド15床）

### 6 第二南陽園事業計画（重点取り組み事項）について

#### 【事務室】

電話対応はお待たせすることがないように、できる限り迅速に努めた。会内の他施設に関する問い合わせについては、地図を渡してご案内し、当該施設の担当者に連絡を取る等、来訪者が求めている情報を的確に繋げるよう努めた。

定期的に事務員全員で全フロアの消毒を行い、感染予防・清潔保持に努めた。また、光熱費高騰による影響も鑑み、使用箇所や頻度を考慮しながら、節電に努めた。

#### 【栄養室】

今年度食事委員会において手作りおやつ提供に向けて検討を開始した。委託業者、フロア職員と話し合いを重ね、手作りおやつ選択食のイベントとして年間2回実施することができた。また、ご利用者一人一人の適切な食事提供ができるよう、口腔ケア委員会や食事委員会のみではなく、こまめにフロアに行きご利用者の様子を確認しながら多職種と話し合い連携した。そのため食形態変更や提供方法変更を迅速に対応できた。新しい食器の購入に向けて選定は開始し、食器の補充はご利用者に欠けた食器が提供され不快な思いをしないよう、在庫を確認しな

がら実施した。

#### 【医務室】

定期的なミーティングを通して、各フロアの情報共有とともに予防的視点を強化してご利用者の日々の健康チェックを徹底したことにより、ご利用者の体調変化に対し、迅速に対応することができた。新型コロナウイルス感染症発生時には感染症対策会議を通じ、環境整備・衛生管理方法の見直しについて検討し、職員の感染予防に対する意識に変化が見られた。引き続き、標準予防策のさらなる徹底により、感染拡大防止に努めていく。

#### 【機能訓練室】

コロナ感染発生により十分な創作活動はできなかったが、南陽園のご利用者と合同制作で作品作りを行うことができた。また、サブリーダー主催の研修では、耐圧分散測定器を用いてポジショニングやシーティング方法の研修をケアワーカーへ実施した。

#### 【生活相談員】

1月から発生した新型コロナウイルス感染症クラスターでは、浴風会病院医師の協力により28名が高齢者医療型支援施設へ入所し加療を行った。年間利用率は94.8%と大幅に低迷し、欠員1日平均2.5人に対して3.1人と目標に届かなかった。要因として、新型コロナウイルスクラスターにより、ショートステイ受け入れ、退院、新規入所を全面中止としたことが大きい。その他は利用率確保に向けて毎月入所検討委員会を開催し、速やかな入所調整を行った。

#### 【地域連携担当】

法人内の施設感染症が発生し実習の受入出来ない際は、連携を図りながら受け入れを行い、実習生が安心して実習できるように調整を行った。学生への日々の声掛けは積極的に行い、担当教員への連絡・相談は密にとり、必要に応じてフロア実習担当と情報共有を行った。

ボランティア活動については、活動再開に向けてボランティアとの意見交換を密に行い、園芸ボランティア・裁縫ボランティアの活動は再開することができた。

#### 【1階フロア】

レクリエーション活動では、カードゲームやお手玉なども使用し、少しの時間も活用しながら数多くのレクリエーションを行うことができた。年間行事では、感染予防対策を図りながらご利用者に合わせた企画をし、花火大会や、お楽しみ

会、クリスマス会等盛大に行い、ご利用者に楽しんでいただく事ができた。環境整備に関しては、整理整頓を含めて、ご利用者がより安心して快適に過ごせる環境を目指して、連絡帳で発信しながら取り組みを行った。

#### 【2階フロア】

サービスマナー委員会と協同し、年間を通して意識付けを行えた。その結果フロア全体のサービスマナーが向上する事ができた。また、余暇活動においては、年忘れ会で行った「職員芸（手品・皿回し・楽器演奏等）」では非常に盛り上がり好評をいただいたが、年間通して1回の開催だったため、来年度は回数を増やせるようにしていく。

#### 【3階フロア】

ボランティアの受け入れ再開はまだだが、少し空いた時間にもDVD上映を行うなど工夫して実施するようにした。また、フロア内の物品等を整理整頓し、清潔を保つように努めた。インカムのイヤホン装着を徹底し、個人情報の保護を行い、同時にサービスマナーに関する課題を定期的に発信しサービスマナー向上に努めた。

#### 【リーダー会議】

コロナ発生時の対応や多職種との連携方法、排泄用品（吸収性の高いものへ）の変更、利用者への食事の適正量や介助方法の工夫等を共有し、フロアで業務改善を行うことで働きやすい環境づくりに取り組んだ。また職員の定着も多く、人材育成も安定している。

#### 【サブリーダー会議】

新人育成に関して、フロアリーダーと連携しながら職員の育成に取り組む事ができた。しかし、指導担当者間での引継ぎがスムーズに行えていないこともあるため、引継ぎの仕組み作りが課題に残った。また感染症予防対策研修を数多く開催し、職員に予防対策の周知徹底と意識付けを行う事ができた。

#### 【事故防止対策委員会】

サブリーダーが中心となり、ヒヤリハットの集計・分析を行い、リスクマネジメント委員会で多職種と検証を行っている。また骨折等重篤な事故に関しては速やかに臨時事故防止対策委員会を開催し、再発防止策の検討を行い対応した。

#### 【虐待防止・サービスマナー委員会】

年2回行っている虐待の芽チェックリストのアンケート結果から各フロア取り組み課題を上げ、フロア毎、委員とリーダー層で連携を図りながら、日々の声掛けや定期的な発信を続けた。インカム等を使用して1日1回課題の周知を行うなどの取り組みも行った。サービスマナーの言葉を耳にする機会が増えていき、職員同士注意し合う場面も見られ、意識向上を図ることができたと思う。

#### 【感染防止対策委員会】

定例の会議に加え集団感染発生に随時会議を実施する事で感染拡大予防に努めた。今年度は2度の新型コロナウイルス集団感染が発生し、年間通して延べ41名のご利用者と22名の職員が感染した。感染対策の情報共有のためZOOMを活用して会議を開催し、メール等を活用した。また、東京都が実施する職員対象のPCR検査を、昨年度に引き続き毎週1回実施したのに加えて、抗原定性キットによる自主検査も週2回行うことで、感染症拡大防止に努めた。

#### 【褥瘡防止対策委員会】

昨年の新型コロナウイルス感染症クラスターの影響により、行動制限に伴うベッド臥床により褥瘡発生者数が増えてしまった。機能訓練委員や多職種と連携を図りながら情報共有を行い、食事摂取状況の観察、適したマットレスやクッションの使用、ポジショニングやシーティング研修等を取り組み、3月末までに1名まで減少することができた。

#### 【ケアプラン委員会】

日常的な記録（コミュニケーションや表情など）は、コロナ感染対応期間などは減少することもみられたが、終息後には以前と変わらず記録ができています。今後も継続して記録を行い、普段のコミュニケーションの中から利用者の生活の中での楽しみ等の情報を収集し、アセスメントシートに役立てていく。

#### 【身体拘束廃止委員会】

2週間に1回に身体拘束解除に向けてのカンファレンスを重ねてきたが、経鼻経管栄養の方のミトン解除は短時間解除にとどまった。また、不適切ケアをテーマとし、グループワーク形式の身体拘束の研修を2回開催し、職員の意識向上を図った。

#### 【口腔ケア委員会】

歯科医師・歯科衛生士より口腔物品、義歯の取り扱い、口腔ケアで注意すべき

点などの的確なアドバイスをもらい、実践することで職員のスキルアップに繋がった。また、委員会で多職種とのカンファレンスで利用者負担も考慮した最適な食事形態やアプローチ方法の検討を行う事で、経口維持を図ることができた。

#### 【食事委員会】

今年度は「手作りおやつ」を開催し、ご利用者から好評いただいた。また、食事環境を整えるため、おしぼりの準備を徹底、食後にテーブルの上だけでなく裏もしっかり拭く等衛生面にも目を向けた。また、ご利用者が食事に集中できるように食事中はTVを消す等をフロア周知した。

#### 【機能訓練委員会】

ご利用者によって拘縮が強く、ポジショニングを行うこと自体難しい方もおり、方法を統一するのが難しい状況も見られたが、職員がポジショニングの知識や技術習得できるよう研修を行い、意識改善や知識・技術の向上を図った。また、多職種や委員会と情報の共有はできたが、分析・対応方法の検討をすることはできていないため合同での会議等検討していく必要があると考えている。

#### 【アクティビティ委員会】

感染予防対策も徐々緩和し、自粛していた花火大会や、阿波踊り等の行事やレクリエーション、会内への散歩を少しずつ実施することができた。WEB上での活動報告は、月1回以上行うようにし、ご家族から閲覧したとの声を頂く事も多くなった。

#### 【リスクマネジメント委員会】

毎月、各フロアのヒヤリハットの集計・分析結果を検討した。委員会で情報を共有し、同様のヒヤリハットを防止できるよう発信するように努めた。全体としてのヒヤリハットは減少傾向である。また、災害時の対応力を高める目的として、地震による断水を想定した委員会主催の炊き出し訓練を実施し、多職種が協力しまき割りから火の起こし方、物品の使用方法を周知した。委員会通信「Spotlight」は継続して発刊し、施設内に情報発信を行った。

## 7 主要行事等の実施状況について

(別表3) のとおり実施した。

### (1) クラブ活動実施状況

クッキング★カフェ（毎月 1 回程度） 11 回 （延 64 名）

(2) 主要行事実施状況

（別表 3）のとおり実施した。

**8 寄付金等の状況について**

令和 5 年度については、ご家族の方から計 2 件、合計 100, 000 円の寄付金をいただきました。